



2011～2012年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

やらまいか

例会日 / 毎週火曜日 12 : 30 例会場 / 豊川商工会議所 会長 / 山城康司 幹事 / 滝下 勲 会報委員長 / 土井昌司
事務局 / 豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 0533-86-2535 Fax0533-86-8889 H P / <http://toyokawahoi.tank.jp>

クラブテーマ：心と身体を健康に

本年度第37回 通算1245回 平成24年4月10日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	3/27 修正出席率
		55名	37名	76%	100%

ゲスト:(なし) ビジター:(なし)

会長あいさつ

山城康司会長



こんにちは。豊川の桜も春爛漫です。佐奈川の桜、桜トンネルの桜、市内すべてですね。明日は残念ながら雨模様で、今日が最後かもしれません。

4月に入り役所関係は新年度に入りました。各ご家庭におかれましては、お子さんやお孫さんが新入学・進級等あったと思います。3月30日に次年度の理事会が行われ、クラブも新年度に向けての準備が始まりました。

幹事報告

滝下 勲幹事

理事会報告

例会臨時変更のお知らせ

委員会報告

C I C O 委員 (縦山修一 会員)

地区の C I C O 全体会議の報告

親睦委員会 (縦山修一 委員長)

春の行楽開催について

卓話

小野喜明会員

今日は、私が今思っていることをお話しさせて頂きたいと思います。

日本の政治の現状で、現在の経済界、産業界は、政治を支えるだけの余裕がない。かつては、政治献金も含めて、政治を支えてきた産業界がありました。政治そのものも内部崩壊してきていると言われていています。そして地方分権とも言わ



れています。そして、経済は国際化、欧米依存という状態からアジア・新興国へ軸を移しています。その裏には、冷戦後のアメリカ軍事の傘が段々と閉じられていくという中に我々がいます。ちょうど今、北朝鮮の衛星打ち上げという話がありますが、そんなような状況の中でアメリカは日本を守ってくれるのか、そんなことは無いという現状です。そして、日本の産業育成や日本人の暮らしがどうなるかということをお話したいと思います。

現在、大変話題になっている大阪維新の会のホームページを開くと、大阪都構想推進大綱より5つの項目があります。自治体改革、二重行政の根絶、住民生活を守る体制、新たな都市経営モデル、大阪都構想と非常にわかりやすい言葉で載っています。この橋下さんが偉いと思うのは、知事の実績を踏まえて、またその地位を投げ打って、市長選に出られたということです。県庁のある市長から知事になった方は何人かおみえになりますが、知事から市長になった例はありません。この一番の問題は、二重行政の根絶によって行政の無駄を排除することだと思います。名古屋も市役所と愛知県庁が並んでいるのは、やはり異様に思います。愛知県の色んな会合にでますと、愛知県の中で県が幅を利かしているのは、名古屋市以外で、政令都市は別格だという扱いです。豊橋市も中核都市ということで別格の扱いです。県と名古屋市のすみ分けが進んでいることを見ていると、非常に二重行政だと感じます。

ご存知のように4月1日から東三河県庁が豊橋の合同庁舎に出来ました。ここに県の事務所、この地域のビジョンを考える企画課を新設しています。この話を聞いたときに本当に出来るのか、県庁を作るくらいなら、かつての東三河分の予算をすべて足して、それよ

りも 2012 年度の予算の方が多くなければ県庁を作った意味がないのではないかと思います。中京都構想ということで、河村市長の発言や、大村知事の発言の中で、やはり名古屋市を中心とした中京都構想になるであろうと思います。その時に急激な地方分権があった時に、東三河県庁がセーフティーネットになるのではないかと、名古屋中心の西高東低型の財政の配分があった時など、より名古屋中心を防ぐ役割をするのではないかと思います。西三河や尾張に比べると東三河県庁ができたことによって、先進的な共同事務が出来るか、東三河県庁を中心に我々が自存を高められるというメリットもあるのではないかと思います。もう一つは、豊橋市を中心とした東三河の政令指定都市化した場合、県で扱えるが、政令指定都市では扱えない事案がありますが、東三河県庁が県として残れば、県として、この一つの地域が一体化で県のレベルの権限で出来る可能性があり、政令指定都市よりもより新しい形が出来ると思います。

中京都構想が言われる理由は、世界の都市間競争の中で、国家が動いているということです。世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキングで、日本は東京のレベルで世界第 24 位です。コンテナや航空機の移動、それが動かなくと都市間の競争に勝てません。コンテナの海運の輸送はそんなに高くありません。名古屋港や豊橋港に行く前の陸送の費用、港湾の費用が掛かり、日本の物流コストが高くなっています。競争の中で住み易さも関係してきます。住み易い都市ランキングで、東京が世界第 35 位。都市間競争という中で、現在考えないといけないうのは、アジアとの闘いです。アジア・ダイナミズムをどのように経営の中や国家の中に入れるかです。アメリカ依存、欧米依存が我々の貿易立国でしたが、現在は、輸出は大中華圏が 34%、アメリカ 17%。輸入は大中華圏 25%、アメリカ 8%。大中華圏は香港、台湾、シンガポール、マレーシアなどです。日本は、大中華圏で 48 兆円の輸出超過があり、ここに向かって輸出することが日本の大事な成長戦略です。そして忘れてはならないのが、人口ボーナスです。インドネシアはこの先 2020 年まで続くと言われていています。日本は 1990 年のバブル崩壊直前に終わっています。中国もそろそろ終わると言われています。

日本の産業育成の現状は、アジアの国々は

国家レベル産業の育成をしようとしています。特に隣の韓国は、電子産業で国家をつくろうと一生懸命です。日本も色々なプロジェクトがあります。国土交通省でコンパクトシティがあり、経済産業省がスマートシティ、厚生労働省では i P S 細胞、文部科学省でスーパーコンピューターなどがあります。これが各省の闘いになっており、国家レベルの産業育成が殆んどないです。かつては繊維であったり、石炭であったり、電子産業や自動車など、国家としての産業をしましたが、現在では自分たちの天下り先を沢山つくろうとし、縦割り行政の弊害が出てきています。

自分の会社の話も少しします。中国に進出して 17 年、独資で 10 年になります。現在、円高がこの 10 年間で 20% 上昇し、人件費が約 3 倍になりました。電力・石油などのエネルギー問題があり、電気は週に 2 回止まっています。競争相手は日系ではなく、アジア企業との競争になっています。良いのは、優秀な人材が確保できており、日本の合理化活動や品質保証が定着しています。海外に出て行ったものの競争が激しいのが現況です。

今後の日本人の暮らしですが、世界で最先端の高齢化社会になっていきます。地震、津波、台風などの災害国家です。これから日本から何を発信するのか、和食やお酒、自然は農業、バイオなど自然に優しいものを日本は沢山持っています。そして Japan Cool と言われる日本のカッコ良さなど、知的財産の創出、アジアからは、常に日本を真似て学んでいます。日本は、中国やアジアの比べて進んでいると自負をして良いと思います。

総括すると、自分たちの国は自分たちで守るという原則。高齢化成熟化社会に向けて考え方を変えていく。日本人としての矜持を持って生きることが大事だと思います。私の好きな小説家に藤沢周平さんがいます。人間の矜持についてたくさん書かれています。特に「清左衛門残日録」がとても印象深いものです。宜しければ読んで頂きたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

ニコニコボックス

井指和昭会員 誕生日を祝って頂き

水野太一会員 結婚記念日を祝って頂き

会報担当者：土井昌司会員、来山健一会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。